

### ① 米利上げ

バンク・オブ・アメリカは 28 日、今年の利上げ回数予想を 7 回に修正した。  
3 月以降の毎回の会合で 0.25%の利上げを想定する。  
米国野村証券は 3 月の利上げは通常の 2 倍にあたる 0.50%になると予想。  
0.50%の利上げとなれば、00 年 5 月以来。  
22 年前の大幅利上げは IT(情報技術)バブルの崩壊につながった。

⇒ 私は今回も同じような状況になると考えています。

### ② 人民元

世界の投資や貿易に伴う資金決済の通貨として、中国の人民元が 2021 年 12 月、日本円を抜いて世界 4 位になった。  
銀行間の国際的な決済ネットワークである「国際銀行間通信協会」(SWIFT)の調べで明らかになった。  
12 月の通貨別決済シェアで人民元は 2.70%。  
2.58%だった日本円を逆転した。  
ドル(40.51%)、ユーロ(36.65%)、英ポンド(5.89%)に次ぐ。

⇒ 人民元は、これからも当分の間、強い通貨になると思います。  
ユーロの割合が意外と高いですね。

### ③ 台湾有事

習指導部は台湾統一を目標に掲げるが、時期は示していない。  
「22 年秋の共産党大会が終われば、武力統一のシナリオが現実味を増す。解放軍の建軍から 100 年となる 27 年までに武力統一に動く可能性は非常に高い」  
(米中関係を専門とする中国人民大学の金燦榮教授)

⇒ ウクライナ情勢・台湾有事・米中間選挙、今年はどうも波乱の年になりそうです。

#### ④ 富士通

終値は 1675 円(10%)安の 1 万 5165 円。

27 日に発表した 2021 年 4~12 月期の連結決算(国際会計基準)で、主力の IT(情報技術)サービス事業の業績予想を引き下げ、失望売りが広がった。

22 年 3 月期の IT サービスのテクノロジーソリューション事業で、21 年 10 月の発表時に比べて売上収益を 500 億円、営業利益で 150 億円引き下げた。

**連結全体の収益予想は半導体部品子会社の好調で補い修正しなかった。**

ゴールドマン・サックス証券の田中誓氏は「半導体不足の影響に振り回されていて、好調の IT サービス企業の中での苦戦が際立っている」と指摘する。

⇒ 全体の収益予想が変わらない中、株価が 10%も下落するというのは、驚きです。

日経平均が 1000 円近く下げたり、600 円近く戻したり、どうも今のマーケットは、過剰反応し過ぎですね。



## ⑤ 世界の「金」需要

国際調査機関ワールド・ゴールド・カウンシル(WGC)が28日発表した2021年の世界の金需要は、20年比10%増の4021.3トンだった。

金宝飾品の消費が52%増の2123.6トンと大幅に伸び、新型コロナウイルス禍の前の19年を上回る水準に回復した。

地金・コインへの現物投資もインフレ懸念などを背景に31%増え、8年ぶりの水準となった。

足元で回復が顕著なのが、現物の金で世界2位の市場規模を持つインドだ。

21年10～12月の宝飾品消費は前年比93%増え、四半期として統計開始以来最も多い。

21年前半はコロナ変異型「デルタ型」の感染拡大で消費回復が鈍かったが、年後半にかけて先送り需要が顕在化した。

最大市場の中国は通年で63%増加した。

経済回復で先行した米国でも給付金などで家計が潤い、21年通年の金宝飾品消費は過去12年で最大となった。

地金・コインへの現物投資は、米国とドイツで統計開始以来最大となった。

機関投資家などが金融引き締めへの懸念から金上場投資信託(ETF)を売り越す一方、消費者はインフレへの懸念から金投資に走った。

⇒ インフレの怖さを知っている米と独の個人は、金や金貨にマネーをシフトしています。

我々日本人ももっとインフレと円安に備えるべきです。